

第6次基本計画策定専門調査会
安全・安心ワーキンググループ（第2回）議事要旨

1. 日 時 令和7年3月12日（水）15:00～18:00
2. 場 所 中央合同庁舎第8号館8階816会議室
3. 出席者

座長	小西 聖子	武蔵野大学副学長・人間科学部教授
座長代理	多賀 太	関西大学文学部総合人文学科教授
構成員	浅野 幸子	減災と男女共同参画研修推進センター共同代表 早稲田大学地域社会と危機管理研究所招聘研究員
同	飯島 裕子	桜美林大学健康福祉学群准教授 ノンフィクションライター
同	小川 真理子	東京大学多様性包摂共創センター(IncluDE) ジェンダー・エクイティ推進オフィス副オフィス長 特任准教授
同	藤森 克彦	日本福祉大学福祉経営学部教授 みずほリサーチ&テクノロジーズ主席研究員

【議事】

- (1) 是川夕氏プレゼンテーション
- (2) 田中東子氏プレゼンテーション
- (3) 小川構成員プレゼンテーション
- (4) 上谷さくら氏プレゼンテーション
- (5) 意見交換

【資料】

- | | |
|-----|-------------------|
| 資料1 | 是川夕氏プレゼンテーション資料 |
| 資料2 | 田中東子氏プレゼンテーション資料 |
| 資料3 | 小川構成員プレゼンテーション資料 |
| 資料4 | 上谷さくら氏プレゼンテーション資料 |

参考資料 第5次男女共同参画基本計画の達成状況

【全体の議事の概要】

1. 是川夕氏、田中東子氏、小川構成員、上谷さくら氏からそれぞれプレゼンテーションがあった。
2. 上記を踏まえ、留意すべき社会情勢及び施策の基本的な方向について及びDVや性犯罪・性暴力の防止と被害者支援に係る施策について意見交換を行った。主な意見は後述のとおり。

【意見交換】

1. 留意すべき社会情勢・現状及び施策の基本的な方向について

- ・ テクノロジーや平和・安全保障の領域に女性が参画していくこと自体は非常に

大きなエンパワーメントである一方で、女性たちが安心・安全ではない状況に置かれるという負の影響も出てくるであろう。その両方をしっかりと押さえながら、第6次基本計画の策定に進んでいくべき。

- ・ メディアやIT業界における女性割合の低さは顕著である。これらの分野における人権尊重意識を高めていくためにも、男女の数的不平等の是正は喫緊の課題。理数系・理工系への進学者の女性比率が非常に少ないという背景もある。
- ・ 生成AIは様々な領域で仕事や生活をサポートしてくれる非常に有用なテクノロジーであるが、学習しているデータセットに性差別的・人種差別的なデータが使用されていることが報告されており、生成AIを活用していく際にはどのようなデータを学習した上で働いているのかに留意する必要がある。
- ・ デジタル空間での嫌がらせ、ヘイトスピーチ、ディープフェイクなど、テクノロジーによる負の影響は、これから深刻になっていくと思う。
- ・ 移住外国人は、緩やかな社会的統合が進みつつある状況と言えるが、移住ルートやライフステージ、階層的地位により移民女性の交差性は大きく異なる。現状、労働市場におけるジェンダー・ギャップは日本人男女間よりも外国人男女間の方が小さい傾向があるが、困難を抱えている外国人女性がいらないことを示すものではない点に十分留意する必要がある。
- ・ インターセクショナリティの分野では、二重のマイノリティ性を抱えた人たちの二重の差別、二重の困難ということが言われるが、見えないところで様々な困難を抱えた人たちがいる。本当に支援を必要としている層に支援が届くような政策の方向性を考える必要がある。

2. DVや性犯罪・性暴力の防止と被害者支援について

(施策等について)

- ・ 性暴力への対策については、刑法、子ども性暴力防止法など、かなり広い範囲をカバーできるようになった。今後は法の運用状況の検証と分析が必要であり、柔軟性を持って実効性のあるものに育てていく必要がある。また、法律ができただけでは志半ばであり、一層の国民への啓発と、司法関係者の意識改革が必要。
- ・ DVや性暴力の相談支援にあたる人の待遇改善が急務。善意やボランティアに依存し、かつ高齢化が進む状況にある。持続的な相談支援体制のため、若い世代が従事する職業として成り立つようにする必要がある。支援者の安全と安心の確保や、低い賃金水準の改善等が必要ではないか。
- ・ DVや性暴力の男性の被害者の相談に対応できるよう、男性相談員の養成やシェルター等での男性の受入れ等の体制整備も重要。

(分野名について)

- ・ 性(的)暴力とジェンダーに基づく暴力、というような表現であれば、男性や性的マイノリティの視点もカバーできているのではないか。暴力の性質そのものはジェンダーに

よるパワーの差が大きいため「ジェンダー」という言葉は外せないのではないか。

- ・ 女性に対する暴力というのはメディア等でも取り上げられ耳なじみがあり、内容的には頭に浮かびやすい。他方で、ジェンダーに基づく暴力は中立的な印象はあるが、一般的にはなじみがなく、ぼやけてしまうという危惧がある。未だに女性の被害者が多いこと等を併記するか、文章中で補足するかの必要があるのではないか。

以上